

# 海に関する仕事

取材・文/伊藤敬太郎 イラスト/桔川 伸

## 日本の貿易や物流、食を支える「海の仕事」に目を向けてみよう!

海運業は貿易や物流を、漁業は食を支えており、共に日本にとって重要な業種。造船を含めたこれらの業界は若い担い手の減少が課題でもある。海や船の仕事は、世界中の海と港が職場、長期休暇、長さ400m以上の船を造る技術などスケールの大きさも魅力。海や船の世界での活躍に憧れる高校生はきっと少なくないはず!

- 海運関連の仕事
- 漁業関連の仕事
- 造船関連の仕事

### 船長

客船や貨物船、漁船などの船の総責任者。航海のルートや日程などの運航計画を立てる、天候などを考慮して最適な航路を判断する、乗客や船員の安全を確保するといった役割を担う。国家資格である海技士などの資格に加え、一定の航海経験が求められる。

### 航海士

甲板部員などを指揮し、船の操縦や航路の監視、貨物の積み下ろし、航海中の積荷の管理を行う。海技士の資格が必須。航行や積荷に関する業務を行う甲板部では、通常、甲板部員からスタートして、段階的に一等航海士へとステップアップしていく。最終目標は船長だ。

### 機関士

船のエンジンやボイラー、発電機などを扱う機関部に属し、これらの機関が正常に動いているかどうかを保守・点検する仕事。燃料の補給なども行う。機関部員からスタートし、段階的に一等機関士、機関長へとステップアップしていく。海技士(機関部門)の資格が必須。

### 造船会社

船主(海運会社など)の発注を受け、貨物船や客船を建造する会社。大型船を造るために造船会社は海辺に巨大な造船所を持っている。船体は部分(ブロック)ごとに部品の製造・組み立てを行い、さらにブロック同士を組み合わせるブロック工法で造られる。

### 造船設計

CADという専用のソフトを使って、船を製造するための図面を作る仕事。船体の全体を設計する基本設計と、パーツを設計する詳細設計とがある。造船業は昔から男性が中心だったが、最近は設計をはじめとする技術部門で活躍する女性も少しずつ増えている。

### 造船製造

造船所で、設計図に従って船体やパーツを製造する仕事。鋼板の切断や加工を行って、それをブロックに組み立て、クレーンなどの重機でブロック同士を組み合わせて巨大な船体を作っていき、高度な溶接の技術などが求められる。船の品質を支える仕事だ。

### 漁師

沿岸漁業を担う漁師は多くが個人事業主。小型船舶操縦士免許を取得し、自分の船で漁を行ったり養殖を行ったりする。地元の漁業協同組合の組合員になり漁業権を得ることが必須だ。近年は、漁師が水産物の加工・販売まで手掛ける6次産業化も活発化。

### 漁業会社

漁船を所有し、沖合・遠洋漁業などを行う会社。長期の航海を行う遠洋漁業では大型の漁船に多くの漁師が乗り組む。漁業だけでなく、水産加工業を手掛ける会社も多い。

### IT企業

今、AI(人工知能)など最新のテクノロジーを採り入れて業務の効率化を図るスマート漁業やスマート物流の開発が進行中。AIに関する技術力やアイデアをもつIT企業が漁業会社や海運会社のパートナーとしてその研究開発に当たっている。

### 海運会社

船による海上での貨物輸送を手掛ける会社。日本国内の輸送を内航海運、日本と外国との間の輸送を外航海運という。海運会社が扱う貨物は、石油、天然ガス、鉄鋼などの資材、自動車、食料品などさまざま。日本の貿易の99.6%は海運が担っている。

### 水先人

多くの船が行き交う港や海峡、内海で船を安全に航行させるために船長をサポートする仕事。該当する区域の環境を熟知していることが求められる。水先人になるには国家資格である免許取得が必須。個人事業主として該当区域の水先人会に所属する。

### 海運会社陸上職

海運会社には航海士や機関士など船上で働く社員のほか、陸上職としてオフィスで活躍する社員も多数いる。その仕事は多岐にわたるが、例えば、技術系の陸上職は、造船会社と連携して新しい船を造るプロジェクトの管理に携わることも。

## 最新の業界事情

### 海運業界でも進む働き方改革

海運・造船業界の大きなトピックの一つが働き方改革。長期にわたることが多かった乗船期間や長時間労働の見直し、さらに船室の防音など船員に優しい船造りに各社が取り組んでおり、労働環境は大幅に改善されつつある。

また、ITの導入による自動運航船の開発も進行中。2025年の実用化を目指し、遠隔操作や障害物を自動で察知して回避するシステムの実証実験が行われている。そのほか、地球環境に配慮し、温室効果ガスの排出量の少ない船舶の開発なども注目される動きだ。

## 職種 PICK UP!!

### 一等航海士

日鉄物流株式会社  
一等航海士  
津島健太さん(28歳)



宮城県立本吉高等学校、国立宮古海上技術短期大学校卒業。海上技術短期大学校在学中に四級航海士を取得。卒業後の2012年に日鉄物流に入社。甲板部に配属され、甲板部員、甲板員、甲板手、甲板長を経て一等航海士となる。現在入社8年目。

新幹線の車両を運んだことも!

生まれは宮城県の気仙沼市。家族の多くが船の仕事に就いていたこともあり、子どものころから海に親しんで育ってきた。自然な流れで国立宮古海上技術短期大学校へ進学。在学中に航海士として働くために必要な四級航海士の資格を取り、日鉄物流に就職した。以来、貨物船の船乗りとして1年の4分の3を船上で過ごす日々を送っている。

一等航海士としての業務は、積荷を船に積み込んだり降ろしたりする荷役、航路を見張る航海当直(にや)などに離着岸作業がある。

「当社が扱う積荷は鋼材が多いですが、船舶のプロペラや発電機などのプラント(大型の機械・器具)を運ぶこともあります。北陸新幹線の開通時には新幹線の車両を運びました。荷役ではリーダーとして積み方の指示をするのですが、荷崩れを起こしてはいけないので、なるべく水平になるようにしたり、重量のバランスを考えたりと細かいところまで気を遣います。その分、うまく積めたときは気持ちいいですね!」

### 津島さんの「1日」

船乗りの仕事は24時間体制で、航海当直は交代制。例えば、朝7時から10時半まで航海当直。早めの朝食を挟んで、11時30分から16時30分まで再び航海当直という流れだ。夜はプライベートな時間もある。

### この職業に就くには

航海士となるには国家資格である海技士の資格取得が必須。海技士が取得できる学校は海技大学校、商船系高専もあるが、高校卒業後に進学するならば海上技術短期大学校が商船系大学が主要なルートだ。海上技術短期大学校は2年制で4級が受験できる。商船系大学は4年で卒業後、乗船実習科(6カ月)を修了すると、筆記試験免除で3級が受験できる。